ボランティア 得難い経験 TOKYO 2020

340人が活躍

東京2020大会終了後、在学生を対象に実施したアンケートでは、大会および都市ボランティアとして参加したと回答したのは58人。

このほか、各関係機関からの支援要請を受けた141人の学生・生徒が会場内外で活動した。多摩市内が一部コースとなった自転車競技ロードレースにおいて、コースサポーターとして本学体育学部の学生が協力したほか、複数の競技で課外活動クラブに所属する学生が各競技の支援を行った。

医療サポートに142人

各会場の医務室にも、142人の本学学生・教職員の姿があった。

本学体育学部スポーツ医科学科や防災・救急救助総合研究所などの教職員と、救急システム研究科の大学院生18人が「会場医療事務責任者（MOM）」として、同学科の学生118人がMOMサポーターとして、首都圏の約30会場に派遣された。また、大会医療体制の中枢である医療調整本部を本学教員の医師・救急救命士ら6人が担い、病院搬送時の医療機関への連絡・調整や各会場のMOM・MOMサポーターとの調整などを行っていた。

本学の専門知識を生かし、選手ら大会関係者の安全面をサポートした。

組織委員会と東京都から謝意

10月19日には東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の運営局長や医療サービス部長らが世田谷キャンパスを訪れ、医療サポートで大会運営に貢献したことへの感謝の意が伝えられた。

また、9月21日には東京都オリンピック・パラリンピック準備局ボランティア担当部長らが同キャンパスを訪れ、大会終了の報告と協力への謝意が述べられた。

医療チームとともに競技前に搬送法を確認

体験報告　達成感 将来に伝えたい

文学部4年　井上 陽帆

新型コロナウイルスの影響で結果的にはフィールドキャストのみの参加となりましたが、オリンピック・パラリンピックで活動した23日間は、活動前に抱いていた期待をはるかに超える日々でした。

私は、選手村のメインダイニングホールという、大会の選手や関係者だけが利用する食堂で活動していました。利用者のカードの確認や歩行ルートの誘導、机上や椅子の整頓、感染対策の呼びかけなど多様な業務を行いました。

活動の中で印象に残っている思い出は、外国の選手らと多くのコミュニケーションをとったことです。私は英語が得意ではないのですが、言葉が伝わった時や日本語であいさつを返してくださった時は達成感があり、やりがいにつながっていました。パラリンピックでは、視覚障害の選手のトレーナーを務めることもあり、一層距離を近くに感じることができました。交流した際に各国選手らからいただいたビンバッジの数々は思い出として家で大切に飾っています。

同じ思いを持って参加したボランティア同士の年齢を超えた交流もあり、一人一人との出会いが大切なものとなりました。

なにより、外国かと思うような選手村のオープンで高揚した空気を忘れることはできません。私が味わうことのできた大会の一端を、将来体育教師になった時に、生徒に伝えていきたいです。

選手村で偶然会った文学部の江川陽介教授（右）と。江川教授はフィリピン選手団柔道チーム専属トレーナーとして選手村に滞在していた

大学拠点接種 7000人に実施

未接種者に新たな機会提供

本学は、新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種を7月初旬から10月中旬にかけて実施し、学生・教職員および本学園業務に従事する関係者、キャンパス近隣の教育機関の教諭ら約7000人を対象に2回のワクチン接種を行った。世田谷・町田・多摩の3キャンパスにそれぞれ会場を設け、土・日曜日などを利用して接種を進めた。体調不良などで接種を受けられなかった学生には、別途接種日を設けるなどして対応した。

実施にあたっては、協定を結ぶ多摩丘陵病院（町田市）の協力を得て、本学体育学部スポーツ医科学科などに所属の医師免許を有する教員、救急救命士資格を有する教職員および看護師、学園事務職員ら延べ350人体制で取り組んだ。

本学救急救命士30人も打ち手に

今回政府が救急救命士によるワクチン接種を特例で認めたことを受け、本学では事前研修を受けた約30人が、医師9人とともに「打ち手」としても対応にあたった。

各会場では接種や経過観察のほか、接種後の体調不良者に対する迅速・適切な処置で、円滑な接種体制を支えた。日ごろは事務部門に従事する有資格者として大きな役割を果たすこととなった。

国士舘中高生の接種も

本学はさらに接種日程を設け、在学生および国士舘高校、同中学校の生徒で接種を希望する約300人に接種する。1回目を10月19日と同27日、2回目を11月16日と同24日に、いずれも世田谷キャンパスに会場を設けて行う。

感染予防の継続を

新型コロナウイルスに関する危機対策本部長で、本学のワクチン接種を主導する医師・島崎修次理事は「第5波は終息に向かっているようだが、今後は第6波の動向を十分に注視していく必要がある」と話し、接種完了者に対しては「マスクを外しての会話や複数人での飲食など感染リスクの高い行動は厳に慎み、引き続き感染予防対策を続けてほしい」と注意を促している。

「受付から退出まで、安全・的確・円滑に」をモットーに、会場のレイアウトや書類の確認方法など、教職員が毎回意見を出し合って工夫と改善を重ねている＝世田谷キャンパスの体育・武道棟1階に設けられた接種会場

接種後 アンケート実施

接種「勧める」88・5％

本学は新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種終了後、在学生を対象にアンケートを実施し、1回目接種後には4094人（回答率62・5％）が、2回目接種後には2729人（同42・3％）が回答した。

接種後の体調については、1回目に「少し具合が悪くなった」「具合が悪くなった」と回答したのが18％、2回目は66・0％で、接種後の副反応は、「発熱（88・6％）」「腕の筋肉痛（80・5％）」「倦怠感（73・9％）」「頭痛（62・6％）」と続いた。副反応は「翌日（75・7％）」が一番強く、その多くが「翌々日（49・2％）」や「3日後（25・0％）」には改善されたと回答した。

接種後の感染への不安感は「だいぶ安心した」「少し安心できるようになった」が1回目で51・4％、2回目で66・3％となり、2回目接種後にさらに安心感が増した結果となった。残りは「あまり変わらない」「まだ安心はできない」と回答し、接種後も感染予防を続ける必要性を感じている学生がいることもわかった。

最後に友人・知人に接種を勧めるか聞いたところ、1回目で79・7％が「勧める」と回答。2回目では、88・5％が「勧める」「どちらかといえば勧める」と回答し、3回目の接種が必要になった場合について「希望する」「どちらかといえば希望する」が89・1％と9割近くに及んだ。

自由記述欄では、早期に接種を受けることができ安心につながった点や、接種会場での丁寧な対応を評価する回答が目立った。

◆

在学生の皆さんは、ワクチン接種の有無に関わらず感染対策を引き続き行いましょう。

4カ国とオンライン研修

21世紀アジア学部は8月上旬から9月上旬にかけてオンラインで海外研修を実施し、2～4年生の130人が受講した。

研修校は、中国、韓国、シンガポール、インドネシアの現地校4校。学生らはそれぞれ中国語、韓国語、英語、インドネシア語の語学授業と、現地校学生との交流などを通じて異文化を体験した。

10月14日には町田キャンパス30号館の各教室で報告会が行われ、参加学生一人一人に修了証が手渡された。

大連東軟信息学院（中国・大連）の研修に参加した三尋木丈也さん（2年）は「3週間まさに中国語漬けの毎日で、特にリスニングやスピーキングに成長を感じた。留学は英語圏をと考えていたが、選択の幅が広がった」と研修の成果を振り返った。

昨年度の海外研修は、コロナ禍で渡航がかなわず学内で代替授業を実施。今年度は、現地校が本学学生向けに準備したオンライン研修を実現した。

この海外研修は21世紀アジア学部の必修科目で、学生には各研修校からの成績と出席状況などを総合的に評価し、2単位が付与される。

52人〝おうち留学〟

韓国

21世紀アジア学部4年　田中 優衣

交換留学が2年連続中止となり、韓国留学の夢がかなえられずに卒業を迎えるかと思いましたが、オンラインで留学ができるというポスターを目にし、参加を決めました。

3週間という短い期間に加え、対面ではない学習でどれほど語学が習得できるのか、また、文化を直に触れられないことへの心配もありました。

しかし私の不安をよそに、実際のプログラムは非常に充実した内容でした。単語、文法、作文、聞き取りなどを毎日学び、課題も多く予習復習が大変でしたが、その分上達が目にみえてわかりました。特に発音練習では一人ずつ丁寧に指導が受けられ、カカオトークを利用し気軽に質問ができる環境でした。さらに、韓国ドラマで学ぶ日常会話から、TOPIK（韓国語能力試験）の出題傾向まで幅広く教わることができました。

また、現地の学生と2～3回一緒に話をする機会が設けられ、互いの文化への理解を深めました。学生生活に関わる話題や、教科書では学ぶことのできない略語や造語、はやり言葉などを教えあい、オンライン上で簡単なゲームをすることもありました。学生が撮ってきてくれた街中の動画を見たときは、実際に韓国にいるような気持ちになりました。毎回1時間の予定でしたが、徐々に打ち解け、4時間も話す日があったほどです。現在も連絡を取っており、コロナが落ち着いたら会う約束もしています。

4月からの就職先は韓国語を生かせる仕事です。ビジネス韓国語が必要ですが、今回学んだことを仕事に繋げていきたいです。学生最後の夏休みに最高の3週間を過ごすことができました。

実際に訪韓したような3週間

エキシビションに出演

男子新体操部 世界にアピール

新体操競技が行われた東京・有明体操競技場では、8月6日～8日の3日間にわたり、競技開始前にエキシビションが行われ、本学の男子新体操部が登場した（写真）。

照明やプロジェクションマッピングと融合した彼らの演技は、会場にいた海外の大会関係者の目を奪い、高い評価を得た。日本発祥の男子新体操は、国内外での普及に努めているものの、五輪種目の女子新体操と異なり、競技人口が少なく認知度が低いことが現在の課題といわれている。

そんな中彼らは、オリンピックが行われる同会場で、日本でもトップレベルの演技を披露。競技ならではの動きや美しさで、世界に男子新体操の魅力をアピールした。

アイスランド選手団「感謝」

メッセージが書かれたホワイトボードを背に記念撮影するパラリンピック選手団のメンバー

アイスランド共和国オリンピック・パラリンピック選手団への本学施設の無償提供が、8月20日のパラ水泳チームの受け入れをもって、全日程を終了した。

オリンピック選手団は、7月18日から24日にかけて、女子競泳と男子円盤投の2選手が、パラリンピック選手団は、8月17日から20日にかけて、陸上競技2選手と競泳3選手が、それぞれ本学の町田・多摩キャンパスを訪れ調整を行った。

練習終了後には、選手らがスポーツフォーマンスセンターにあるホワイトボードに、参加メンバーの名前やお礼の言葉などを残し、コロナ禍で思うような交流が図れない中、感謝の気持ちを表した。

本学施設の無償提供は、本学と、同国の事前キャンプ地である東京都多摩市、同国の各協会の覚書によって実施された。

2警察署から感謝状受ける

本学は、東京2020大会に協力したとして、警視庁北沢警察署と同多摩中央警察署から、それぞれ感謝状を受贈した。

北沢警察署からは、大会期間中に本学敷地を貸し出し、昼夜を通して続く警察官の業務に貢献したことが、多摩中央警察署からは7月23・24日に開催された自転車競技ロードレースの警備拠点として、本学多摩キャンパスの教室などを貸し出し、大会の安心安全な開催に貢献したことが評価された。

路上生活児に聞き取りも

フィリピン社会 オンラインで調査

政経学部政治行政学科上村信幸ゼミナールは、8月4・5日の2日間、現地社会調査を目的として、フィリピンと世田谷キャンパスをオンラインで結んだスタディツアーを開催した。

認定NPO法人アイキャンとのパートナーシップに基づくもので、上村ゼミの2・3年生21人が参加した。

初日は、フィリピン国内に21万人以上いるといわれる路上の子どもたちの実態を学んだ後、首都・マニラ市内のリアルタイム映像を見ながらオンライン散策を実施。路上生活をする子どもたちとの交流を通して、彼らへの支援活動について学習した。

2日目は、ケソン市のごみ処分場と周辺地域の現状について学習し、オンラインでの地域散策と家庭訪問による聴き取り調査を実施した。アイキャンの支援で立ち上げられた現地住民によるフェアトレード商品生産団体と学生との意見交換では、活発に質疑応答が行われた。

学生からは「世界で何が起きているのかを知ることができた」などの感想が寄せられ、国際的な支援活動の重要性を学ぶ機会となった。

ケソン市パヤタス地区に広がるごみ処分場と周辺地域

国士舘史資料室だより ○43○

百年史編纂の成果

国士舘創立100周年記念事業の一環で推進してきた編纂事業の集大成として『国士舘百年史』が、今年3月に刊行された。これで『国士舘百年史』は平成27年既刊の『史料編』上・下を含む3冊となったことは、前号掲載の通りである。百年史編纂は本学にとって初の本格的な修史事業であったが、これを所掌した当室としても、ようやく長年の責を果たしたことになった。今回は上梓した『通史編』の特徴とともに、『国士舘百年史』編纂の成果の一端を紹介する。

今回刊行した『通史編』は、先の『史料編』2冊に収載した史料などに基づいて創立以来の歩みを叙述したもので、目次はほぼ同様の3部構成となっている。そのため叙述の上では『史料編』の掲載史料を示し、さらに未掲載の史料には註を付して典拠を示した。一見、註は煩わしく感じるかと思うが、編纂方針である客観性を高め学術研究に耐え得るための方法である。他学の沿革史では典拠註を多用しない場合もあるが、本書は今後の利用の便も考慮し、あえて付与した点に特徴を持つ。このため紙幅や史料の都合から『史料編』には掲載できなかった、昭和20（1945）年頃の戦時体制下前後の状況や昭和50年代の海外事業の拡大などの内容は、可能な限り新たな典拠史料を示しつつ叙述した。

また従前まで誤認されていた事項は修正を加え、現段階での位置付けを行った上で叙述するよう努めたが、一例には本学の母体である青年大民団の結成日の誤りなども含まれた。このほか近年学内でも周知されてきた渋沢栄一による支援に関しては、特に大正15（1926）年の動向から渋沢が担った重要な役割を示し、歴史的位置付けを図った。

編纂事業とは「自己点検・評価」の性格もあわせ持つ。教育史研究の大家・寺崎正男氏の言を借りれば、編纂物の出来栄えは「現在の経営・研究スタッフの持つ学問水準や研究的熱意、組織としての合意の水準、さらには学校・大学の将来像に対する構想」などが反映されるものである。その意味で近年、百年史編纂を実施した他学の事例と、単に量的な視点で比べても遜色のない水準にある。平成30年終了の拓殖大学の14冊という実績は別格であるが、成蹊学園1冊（平成27年）、西南学院2冊（同31年）、東京女子大学2冊（同31年）などと比較しても『国士舘百年史』の3冊の刊行は、十分に社会的な評価を得られるものと期待したい。

今回の編纂事業は、史料を基におおむね編年体での叙述を基本とした。通称「部局史」と呼ばれる学園組織ごとの編纂は行わず、本学の伝統でもあるスポーツに特化したような内容ごとの編纂も見送った。また写真中心の編纂物を望む声があったことも承知している。それらは将来的な課題として、適切な時期に取り組むことになろう。

今後の当室の活動は、『国士舘百年史』の活用を図るとともに、編纂で用いた史料の再整理や、今後の修史事業を見据えた新規資料の収集・整理などを一層進める必要がある。新たに調査すべき学内外の資料収集の必要性も判明しており、引き続き着実な作業を積み重ねることに変更はない。

最後に、百年史編纂にあたり多くの関連資料を提供いただいた全国の関係者に重ねて感謝を申し上げる。国士舘の歴史や伝統を発揮し、次の世代に継承するため、引き続き当室への関連資料や情報の提供を願いたい。

（国士舘史資料室　熊本好宏）

『通史編』に新収載した第1回高等部卒業記念（大正11年11月）

令和4年度（2022年度）国士舘大学大学院 入学試験日程

研究科	試験期	願書受付期間（郵送消印有効）	試験日	合格発表（12:00～）
政治学	Ⅱ期	10/7（木）～10/15（金）	11/14（日）	11/16（火）
	Ⅲ期	1/4（火）～1/11（火）	2/5（土）	2/8（火）
経済学	Ⅱ期	1/4（火）～1/11（火）	2/5（土）	2/8（火）
	Ⅲ期	2/1（火）～2/10（木）	3/6（日）	3/8（火）
経営学	Ⅱ期	1/4（火）～1/11（火）	2/5（土）	2/8（火）
工学	Ⅱ期	1/4（火）～1/11（火）	2/5（土）	2/8（火）
法学	Ⅱ期	1/4（火）～1/11（火）	2/6（日）	2/8（火）
	Ⅲ期	2/1（火）～2/10（木）	3/6（日）	3/8（火）
総合知的財産法学	Ⅱ期	10/7（木）～10/15（金）	11/14（日）	11/16（火）
	Ⅲ期	2/1（火）～2/10（木）	3/6（日）	3/8（火）
人文科学	Ⅰ期	10/7（木）～10/15（金）	11/14（日）	11/16（火）
	Ⅱ期	2/1（火）～2/10（木）	3/6（日）	3/8（火）
スポーツ・システム	Ⅰ期	10/18（月）～10/25（月）	11/6（土）	11/9（火）
	Ⅱ期	1/7（金）～1/14（金）	2/5（土）	2/8（火）
	Ⅲ期	2/8（火）～2/15（火）	3/5（土）	3/8（火）
救急システム	Ⅰ期	10/18（月）～10/25（月）	11/6（土）	11/9（火）
	Ⅱ期	1/7（金）～1/14（金）	2/5（土）	2/8（火）
	Ⅲ期	2/8（火）～2/15（火）	3/5（土）	3/8（火）
グローバルアジア	Ⅰ期	10/18（月）～10/25（月）	11/6（土）	11/9（火）
	Ⅱ期	1/7（金）～1/13（木）	2/5（土）	2/8（火）
	Ⅲ期	2/7（月）～2/15（火）	3/5（土）	3/8（火）
	秋期	7/6（水）～7/15（金）	7/30（土）	8/2（火）

入試説明会

12月4日（土）13：00～15：00
受付開始（12：30～）
※事前申込制

■場所
国士舘大学 世田谷キャンパス
梅ヶ丘校舎34号館B棟3階 B301教室

■プログラム
研究科の紹介／入試案内／研究科ごとの個別相談

■募集研究科
修士・博士課程
政治学研究科／経済学研究科／経営学研究科
法学研究科／総合知的財産法学研究科（修士課程）
工学研究科／人文科学研究科／スポーツ・システム研究科
救急システム研究科／グローバルアジア研究科

■お問い合わせ先
国士舘大学 教務部 大学院課
TEL:03-5481-3140

詳しくは国士舘大学大学院ホームページをご覧ください。
国士舘大学大学院　検索